

まちのできごと



大きな声援の中、錦江路を走る毛下選手

町民の期待を背負い走り抜ける

2月14日(土)～18日(水)の5日間にわたり、第56回鹿児島県下一周市郡対抗駅伝競走大会が開催され、最終日に錦江路を12名のランナーが駆け抜けました。中でも、毛下選手が力強い走りを見せると沿道からは一際大きな声援が上がりました。

今回は肝属チームに家長広人監督を始め、3名の選手が錦江町から選ばれ今大会を大いに盛り上げました。また、昨年に続き日置チームの一員として石塚選手も出場し、元気な姿を見せてくれました。

今回、初出場を果たした樟南高校3年の尾長谷選手は、若さ溢れる、元気な走りで見事、今大会の新人賞を獲得しました。

家長監督は、「今大会は半数の選手が入れ替わり、選手起用も難しい大会となりました。各選手は持てる力を発揮する努力をしてくださいましたが、厳しい結果となりました。」

本大会を支えてくださいました大会関係者をはじめ、ご声援いただきました多くの皆様方に感謝いたしております。」と話されました。



左から、白山選手、尾長谷選手、家長監督

本町出身選手

家長 広人監督(川南自治会) 毛下 寿史選手(平石自治会)
白山 智洋選手(新田自治会) 尾長谷大志選手(郷ノ原自治会)
石塚 正太選手(半下石自治会出身)

せっがい!?



花瀬地区の鬼火焚きの様子

2月の上旬に田代地区の各地で「せっがい」が行われました。

せっがいとは、「節が替わる」の鹿児島弁で、季節が変わることを指します。

田代地区では100年ほど前からせっがいの行事として鬼火焚きが行われており、竹で組んだやぐらに火を点け、竹がはじける音で鬼を追い払い無病息災を願うとされています。

今年も田代のあちこちを鬼が逃げ回ったことでしょう。

おいしさ、みどころ再発見!



手作りの郷土料理に舌鼓

2月3日(火)に韓国人留学生16名を含む総勢44名が「おいしさ、みどころ再発見ツアー」という企画で本町を訪れ、田代うんめもん会で郷土料理づくりや照葉樹の森で木工体験などを行いました。

参加者らは、普段体験できないことに挑戦しながら、錦江町のすばらしさを堪能していました。

これからもこのようなツアーなどで本町のすばらしさをPR出来る機会が増えることを願います。

錦江町に想いを馳せて



桂竹丸師匠の講演の様子

2月14日、鹿児島市内のホテルで「鹿児島たしろ会」の総会が行われ、多くの出身者が出席したほか、錦江町からも町長等が出席し盛大に開催されました。

会場では錦江町の特産品が販売され好評を博したほか、親睦会では桂竹丸師匠が講演をされ、会場は笑いの渦に包まれました。

出席者は、ふるさとへの熱い思いを語り合い、これからも固い絆で結ばれていることを再認識されたようでした。